

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人



新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十四年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

真の救いとは何ぞや

今日批判者の決まってしまう言葉は、本教が宗教でありながら治病に専念するというのは、間違っているというのである。しかしよく考えてみると、こんな訳の分からない話はない。何となれば右のような批判者の考え方は、宗教なるものは精神的方面のみの救いで、物質方面は宗教の分野ではないと決めているからであろう。従って病氣治しというごときは、物質方面であるから宗教でないと思うのである。彼等は物質的救いとは宗教を逸脱しているように思い、精神的方面のみが宗教の本質と決めてかかっている。もちろん彼等の思う精神的救いとは、一言にしていえば諦めである。苦悩を物質的に救う力はないから、やむを得ずせめて精神上の諦めだけでも苦悩を減らそうとする訳である。これが今日までの宗教に対する多くの人の観念であったことである。ところが物質を度外視し、精神方面だけの解決

では実際上の救いとはならない。というのは、物質的解決が可能である事の実証を信ずるからこそ、精神的にも真の安心を得られるのである。例えば腹の減った場合、いずれ誰かが食物を運んでくれるという信頼があつてこそ安心が出来るので、誰も持つて来ないと分かつたら餓死の恐怖に怯えるのは当然である。その他病気にしても生活苦にしても、信仰によって解決出来るということ認識するから、真の安心が得らるのである。このように物心両面の解決こそ、真の安心立命の境地に救い得らるのである。

とすれば物心共救いの根本は、病気を解消し健康人たらしめること以上のものはない。たとえば金銀財宝が山と積まれても、山海の美味が食膳に高く積まれても、地位や名誉がいか程与えられても、病苦に悩んでいたら一切は零である。しこうして人類を救う第一条件としては、何よりもまず健康の達成であらねばならない。本教が救いの根本として、病なき人間、病なき社会を目標とするのは右の意味にほかならないのである。

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 全身マヒが全快 元気に感謝の日々…
- 出来ない…と言われた私に赤ちゃんが…
- 不幸な人生から幸せな生活へ…

ネパール

肘の痛み

浄霊で救われ
感謝の日々…



キルティプール支部
サラスワティ・クスレ(66)

二〇一四年、私が五十五歳の時、両肘に傷があるような痛みを覚えました。突然出てきた症状だったので驚き、すぐに病院に行きました。しかし病院では「原因は分からない…」と言われてしまいました。どうしたらいいだろうかと悩んで三カ月程が過ぎてしまいました。その間も痛みはあり、生活するのも辛い状態でした。

そんな時、近所の方に私の状況を話したら、その方が「近くに新健康協会のキルティプール支部があるから行ってみたら…」と勧めてくれました。私はそこで良くなるのであれば…と思い、とりあえず行ってみることにしました。

初めて浄霊を受けると、肘だけでなく体全体が爽やかな感じがしましたので、浄霊を続けることにしました。すると、浄霊を受ける毎に痛みが和らいでいき、約二週間で完全に良くなりました。

三カ月程悩んでいましたので、こんなに早く良くなるとは思わず、本当に嬉しかったです。

この時から十年以上経ちますが、今でも支部に行き、浄霊を続けております。浄霊を受けると元氣になれますので、本当に有難く、日々感謝を申し上げております。この浄霊を一人でも多くの方にお伝えしていきたいと思っています。

明主様、誠に有難うございます。

(ネパール・キルティプール)

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

周期性四肢麻痺

全身マヒが全快
元気に感謝の日々…



荒尾支部
小野勇次郎 (69)

私が新健康協会を知ったのは、小学生の頃です。叔母の家が福岡県の瀬高にある新健康協会の出張所だったというところもあり、時々総本部や支部へも行っていました。

その後、昭和五十年に二十歳で神戸の大学に合格し、地元である福岡県の大牟田を離れることになるので、どこでも浄霊が出来るように…と昭和五十一年三月三十日、二十一歳で入会しました。

大学生活は無事に過ごすことが出来ていたのですが、大学卒業の目前、昭和五十五年の二月半ば頃、朝起きようとしたら、突然体が動かなくなりまし

とも出来ず、大声で下宿の友達を呼び、寝返りを打たせてもらいました。しばらく横になっていたら、そのまま眠っていたのですが、午後三時頃に目が覚めると、普通に体が動かせました。とても不思議で、その後一カ月は特に何ともなく、一時の悪夢だったのかな…と思いました。

その矢先、再び同じ状態になりました。四月には東京の大企業に就職が決まっていたので、仕事に行きだしてからでは、迷惑がかかると思い、病院で検査をしたのですが、どこにも異常はなく「原因不明の病だろう…」と言われました。

しかし、自分が心配していたことがとうとう起こりました。入社式の当日、退場するので立ち上がろうとしたら、足が動かず、会社の人に手伝ってもらい寮に帰りました。一時間ほどで回復しましたが、翌朝になると全身が動かず、どうにもならないので、会社の勧めで入院することになりました。

まず外科で検査をしたのですが、何の異常もありませんでした。次に内科に移され検査をすると「血液中にほんのわずかな異常がある…体が動かない時に検査をしないと分からない…」とのことでした。しかし、入院しているも、体が動かなくなる症状は現れなかったもので、血液中にインシュリンを投与し、調べました。すると「甲状腺機能亢進症周期性四肢麻痺」と診断されました。これは甲状腺の機能亢進のため、血液中のカリウムが低下して脱力し、周期的に麻痺が起るということです。

この検査後、全身麻痺が頻繁に起こり、動悸も以前より激しくなっていました。治療薬も処方されましたが、お医者さんから「とても強い副作用があ

り、稀には命にもかかわるので、退院後も通院するように…薬で治る確率は三十%程なので、治っていないかったら手術もあり得る…」と言われ、本当に良くなるのだろうか…と不安になりました。

この間、一カ月半入院していたのですが、その後も足の麻痺が起り、全身麻痺も長く続いたので、このまま医学に頼っていてもどうなるか分からな…このまま麻痺が続くのでは…と恐ろしくなりました。

そんな時、母が入院していたことを知り、会社の寮に電話をかけて来ました。「一度実家に帰っておいで…」との言葉に、私も会社を辞めて実家に帰ることにしました。そして、浄霊を受けるため、叔母の家である瀬高出張所に行きました。

完全に良くなった…

それからは毎日浄霊を受けるようになり、最初の二カ月間は全身麻痺が頻発していましたが、少しずつ良くなり食欲も出るようになりました。三カ月頃になると、麻痺が起る間隔も長くなりましたので、少しずつ体を動かせるようになりました。気分の良いときは自転車に乗り、健康新聞の配布もしました。

すると、四カ月後には、見違えるほどに体の調子が良くなり、麻痺もほとんど感じないくらいになりました。本当に薄皮を剥がすように、ゆっくりと、そして確実に良くなり、元気になっていく様子がはっきりと分かりました。

昭和五十六年、二十六歳の頃には体重も五十五キロと引き締まった体にな

り、疲れも感じなくなりました。

二十七歳になると、自分の体を思いつきり使ってみようと思い、アルバイトを二カ月間しましたが、麻痺が出たり、体に影響が出たりすることはなく、特別悪いことは起こりませんでした。

こうして自分に自信がつくようになり、食後によく起きていた麻痺も起こらなくなり、元気だった頃のように力がついてきました。すると、翌年の昭和五十七年は、一年間全く麻痺がおりませんでした。

浄霊を受けたおかげで、二年で完全に良くなりました。もしも浄霊を受けていなかったら今頃どうなっていたか分かりません。

現在六十九歳で、あれから四十一年が過ぎました。この間、麻痺は全く起きていません。その上、風邪等の様々なことも浄霊で救われてきました。

毎日感謝の日々を過ごし、今後多くの方に浄霊を伝えていきたいと思

います。
明主様、誠に有難うございます。
(福岡県大牟田市)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

浄化作用

人間には体内の毒素 (= 不純物) を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



子宮筋腫

出来ない…と言われた
私に赤ちゃんが…

川棚支部
山口美由子 (82)



私は昭和三十七年、二十歳の時に盲腸炎を患い、病院で治療をしました。その時、医者から「婦人科も悪いから、盲腸炎が良くなったら、引き続き婦人科の治療も受けるように…」と言われていました。

その二年後、二十二歳で結婚し、翌年の一月十日、お産で入院している友達の見舞いに病院へ行きました。その頃は、月経不順で月経痛もありましたので、お見舞いついでに診察を受けてみました。また、結婚してから子どもも出来ていませんでしたので、いろいろと気になっていた頃でした。そんなに悪い状態ではないだろう…と思っていましたので、医者から「子宮筋腫です」との診断結果を言われて、とても驚いてしまいました。さらに、「四日後に精密検査をし、結果次第では手術をする…手術しか方法はありません。今からでも手術は出来るので、今のうちにしましょう…」と言わ

れた上に、「子どもは絶対に出来ません、子宮を取ってしまったら、筋腫が大きくなるとは大変だ…」とも言われましたのでさらに驚きました。手術をするのは恐ろしいし、嫌でしたので、家に帰ってから、電話で母に相談しました。その当時、母は新健康協会の会員でしたので、「川棚支部へ行つて浄霊を受けてみたらいいよ…」と勧めてくれました。最初はどうかと悩みましたが、手術はしたくなかったので、それから一週間後の昭和四十年一月十七日、私は初めて支部へ行き、浄霊を受けました。検査をした日以来、病院が恐ろしくなりました。私は、その後の精密検査にも行かず、毎日浄霊を受けることにしました。

浄霊を受けて良かった…

最初は下腹部に握りこぶし大のかたまりがあり、圧迫感もありました。その上、始末便秘がちで、うつ伏せで寝ていると下腹部が重苦しい状態でした。浄霊を受けると毎日便通があるようになりました。軟便や下痢といった状態でしたが、それによって体内の毒素が排出され、次第にかたまりは小さくなりました。その様子が私自身嬉しくなり、きつと浄霊で良くなる…という自信がつくようになりました。何となく救われたような気持ちになり、心の安らぎを覚えました。

その後、お腹がとても軟らかくなり、こぶし大もあつたかたまりは更に小さくなっていました。その上、以前から悩んでいた月経痛までも良くなり、日に日に快方に向かいました。浄霊を受け始めてわずか一カ月半の

二月終わり頃には完全に良くなり、かたまりは無くなりました。こんなに嬉しいことはありません。医者から手術を勧められた時は大変ショックでしたが、浄霊を受けて本当に良かったと心から感謝申し上げます。

私は浄霊で心身共に健康になりましたので、その後も浄霊を続けていきました。そして、昭和四十六年六月二十五日、二十九歳で入会しました。

奇跡…私に赤ちゃん!?

入会して二年後の昭和四十八年、奇跡とも言える出来事がおこりました。なんと、妊娠したのです。本当に信じられませんでした。私に赤ちゃんが出来た…二十三歳で診察したときに「子どもは絶対に出来ない、子宮を取る…」とまで言われていたのに、赤ちゃんが出来た…と、言葉では表すことが出来ないくらいに感動しました。本当に嬉しかったです。

それから毎日浄霊を受けまして、昭和四十八年十二月二十四日、無事、元気な男の子を授かりました。私自身が救われるだけでなく、新しい命までいたただけて、本当に感謝しかなく、心の底から涙が溢れました。この時の奇跡は、五十年経った今でも鮮明に覚えており、一生忘れることは出来ません。

今では息子も結婚し、孫も二人出来ました。あの時に浄霊に出会えたおかげで息子、孫と、代々救われております。本当に有難うございます。

これからも私の体験を多くの方に伝えていこうと思っています。明主様、誠に有難うございます。(長崎県東彼杵郡)

ネパール

手の痛み・神経圧迫

不幸な人生から
幸せな生活へ…

バナパ支部
ハリ・ポテ・スレスタ (86)



一九九一年、私が五十二歳の時に、自宅近くで新健康協会のバナパ支部が設立されたのですが、それまで私は不幸続きでした。

犬に噛まれた時、注射で治療したら、注射針の影響で余計に症状が酷くなったり、胆嚢が悪くなって手術をしたり、上から重たい物が落ちて、足を骨折したこともありまして。

様々な病気にもなったので、薬もよく飲んでいたので、一九九四年頃から手の親指が痛くなり、手が震えるようになりまして。薬を飲んでも効果はなく、どうしようかと思っていた時、自宅近くに来たバナパ支部を思い出しました。そこでは「浄霊」をしている…ということも知っていましたので、支部で浄霊を受けることにしました。浄霊を受けていると、痛みが和らい

だったので、それから一週間浄霊を続けました。すると、親指の痛みと震えは完全に良くなりました。私は嬉しくなり、お医者さんに「浄霊で良くなった」と見せに行つたのですが、お医者さんから「いずれは他のところに影響が出てくる」と言われましたので、病院には行かず、浄霊を続けることにしました。その後、二週間で信じられないくらいに良くなりました。そして一九九五年八月十八日、五十六歳で会員になりました。

その後も多くのことで救われました。二〇〇八年、六十九歳の時に腰の神経が圧迫されたようになり、両足を動かすことが出来ず、起き上がることも出来ませんでした。

私は以前に手の痛みと震えが浄霊で救われましたので、この時も浄霊を続けることにしました。最初のうちは自宅で浄霊を受けていましたが、徐々に回復していき、体も動かせるようになり、二カ月程で完全に良くなりました。七十九歳の時には前立腺が悪くなりました。この時は病院で検査をしたので、お医者さんから手術を勧められましたが断り、浄霊を続けました。すると、わずか一週間ほどで良くなり、手術をしなくて良かったと、心から喜びました。

以前は不幸続きで、何か病気をしたり、ケガをしたりしたら、すぐ病院に行き治療をしていました。薬も多く飲んだので、その副作用もあり、なかなか暗闇から抜け出せない状態でした。しかし、今は浄霊に出会い、手術等をしなくても元気に過ごすことが出来るようになります。明主様のおかげで幸せな生活を過ごすことが出来ています。心より感謝申し上げます。(ネパール・バナパ)

自然農法

自然農法体験談



佐賀支部
北村広紀 (67)

「より安全なご飯を食べてもらいたい。」

私は、日本でも有数の米どころ佐賀平野で無肥料・無農薬、太陽と水と土だけしか使わない自然農法でコシヒカリを育てています。化学肥料はもちろんのこと、有機肥料も使っていません。毎日お米を食べる日本人にとって最もいい農法とは、そこにある自然だけを利用することではないかと思えます。

30年間独自の厳しい基準と管理方法で、安心安全で美味しいお米をお届けしています。

◇
1983年、ビニールハウスでナスの栽培を始めましたが、肥料と殺菌剤、殺虫剤の使用量に驚きました。このような栽培法をしていた私も「こんなに有害で恐ろしいものを使った作物を食べていたら、人類は滅んでしまうのではないか」と思うようになりました。

そんな時、自然農法を知りました。その教えの中に「本物の自然農法農産物は美味しい。そうでない物はどこか間違っている」という部分があり、共感しました。人の身体は、食べ物で作られます。健康な身体を保つ為に、添加物や農薬使用が無い物を摂る事が大事です。自然の食べ物は免疫を向上させて、毒物を排出してくれると思います。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

それから早速、私は1986年6月に10アール(約300坪)だった田んぼを、翌年には5倍に、3年後には160アール(約4800坪)全ての水田を自然農法に切替えることが出来ました。そして自然野菜を育てていたビニールハウスを解体し、現在185アール(約5600坪)の水田で自然農法をしています。

私が実行している自然農法とは、化学肥料はもちろん、有機肥料も使用せず、太陽、水、土の力をフルに発揮させ育てること、そして農薬は使用しない農法を指します。

消費者の方の質問に「肥料を使わなかったら、いずれ土の肥料分がなくなり、段々作物が採れなくなるんじゃないの?」という意見をよく聞きますが、そういうことはありません。なぜなら、太陽、水、土そのものが自然の肥料だからです。

そしてもう一つ多い質問で「虫の被害はないのですか?」というのを聞かれますが、「肥料を施せば、葉から窒素ガスを出し、その窒素ガスに誘われて虫害が発生する」と聞いています。そのような訳で肥料を施しません。

自然から逃げない事が北村広紀の自然農法です。
私の未来設計は、2030年までに自然農法を世界に広げる構想を持っております。その為に、一般農家がやりたい自然農法に持って行く事を主として行動するように努めております。



美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

貫名海屋「四季山水」之内 《江上春暁図》

本作は《江上春暁図》と題された、江戸時代末期の儒者で書家、画家の貫名海屋の画です。「江上」は大河のうえ、あるいは川のほとりのことで、その名の通り小舟に乗る人物が浮かび、水辺には建物、そして両岸から奥へと山々が連なる溪谷の光景が広がっています。「春暁」は春の夜明け。早朝の澄んだ空気のなかに冬とは違う和らぎを感じ始めるような、爽やかさと暖かさが色味から伝わってきます。

本作は四幅対で四季の景観が描かれた「四季山水」の一つで、《夏山雨後図》《秋晚歸舟図》《江山孤亭図》と続きます。各図とも自筆で七言二句の漢詩が賛されており、元稹、張泌、羅隱、杜牧という、いずれも中国唐代の詩人の詩が引かれているようです。この春の図に付けられているのは元稹の「送王十一郎游剡中」から引用された次の句です。

百里油盆鏡湖水 (百里の油盆 鏡湖の水)
千峰鈿采會稽山 (千峰の鈿采れり 會稽山)

「鏡湖の水面は、百里にわたって油をひいた盆のようだ。會稽山の千の峰々は、かんざしを垂らしているかのようである」。鏡湖は中国浙江省紹興県の西にある、鑑湖や長湖、太湖とも呼ばれる湖のことで、會稽山も同地域の南に位置する山です。つまり唐時代の中国・越州の名勝を讃えるような描写になっていると考えられます。

海屋の品格の高い書風は市河米庵、巻菱湖とともに「幕末の三筆」と称され高く評価されまし

た。もともと阿波徳島藩士の家に生まれ、書の手ほどきを受けていたほか、絵は藩の絵師である祖父に狩野派を学びました。高野山で山内の図書、空海の真跡に接してそれらの影響を受け、下山後は大坂の儒者に学びます。その後書画研究の旅で全国を巡るなかで、長崎にて南画を教授されますが、のちに京都で須静塾を開いて儒学を講じました。つまり儒者として生計を立て、書画には理想を求めて取り組むという、文人画家としての生き方を全うした人物なのです。

本作でも中国の風物を読み込み、唐代の漢詩を用いて情景の感興を表現する教養が遺憾なく発揮されているといえるでしょう。ひよっとすると、どこか日本の実景に対して思い起こした漢詩を組み合わせている可能性もあり、いろんな想像が膨らむ作品です。

解説 松田愛子



清明会館 「山の景」展

期間：令和6年10月1日(火)〜令和7年5月13日(火)

※清明会館お問い合わせ ☎092)661-1555

健康新聞についてのお問い合わせは
(092)661-1531まで